

## 後記

評価という言葉を知ると、「何かしら冷たさを感じる」とある人が言っておられました。せっかくがんばってきたのに、それが短い文章や記号で簡単にかたづけられてしまうということでした。

では、ふりかえりと言葉を替えてみればどうでしょう。また、見直しという言葉では、どうでしょうか。評価とは足跡をたどり、それを踏まえて今後の取り組みを改善するために行うものだと考えています。

今、教育の現場には様々な評価があります。児童生徒への学習評価、教員の授業評価、さらには、学校評価 e.t.c。それらは、次への可能性や期待が感じさせられるものでなければなりません。評価者と被評価者が、これまでをしっかりとふりかえり、お互いに何をこれから行えるのかということについてしっかりとした目標を共有することで、評価も生きたものとなるのではないのでしょうか。つまり本来、評価には双方向性が存在するのです。

連携や発信についても同様ではないでしょうか。双方向性を意識していなければ自分の立場ばかりを主張し、連携は形だけになってしまいます。また、受信と返信を意識していなければ、発信は一方通行の自己満足だけのものとなってしまいます。子どもたちの未来づくりのためにも、常に双方向性を意識した取り組みを推進しなければならぬと考えております。そのことが、「協働」による教育活動推進の実現を生み出すことでしょう。

どうか皆様、今後ともよろしくお願いたします。ありがとうございました。

【摂津市教育委員会教育総務部 理事 市橋 正己】

---

---

## 【平成22年度】 摂津の教育のすがた

---

摂津市教育委員会

平成23年2月 初版発行

---

〒566-8555 大阪府摂津市三島一丁目1番1号  
TEL.06-6383-1111(大代) 072-638-0007(代)  
FAX.06-6319-5066

---